

## 【授業科目】災害看護学 Disaster Nursing

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
小寺 直美、多次 淳一郎	4年次前期	選択	1	15	講義	あり	卷末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び 課題に対する フィードバック 方法	授業概要/災害への備えは国民の一人ひとりが欠かすことのできない課題となっている。本科目では備えが社会の変化や地域の人々の暮らし・いのちと密接に関係していることを理解し、あらゆる状況に対して看護の役割を果たすために必要な災害看護の基礎について講義やグループワーク、演習で授業を展開する。 課題に対するフィードバック方法/講義中に口頭にてコメントする。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。							
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「国際的視野で看護を考え、ヘルスケアシステムにおける看護の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる」の達成に寄与している。							
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	①災害看護の基礎的な知識について説明することができる ②災害時に看護者としてどのような活動ができるのか考え、記述することができる。 ③災害への備えの一環として、身の回りの物を活用した救護の技を習得し実践できる。							
時間外学習 に必要な 内容・時間	第1回事後課題： 動画【日本赤十字社】石巻赤十字病院～東日本大震災発動の記録～ を視聴し、 感じ、考えたことをまとめる。(60分) 第2・7回課題： (第2回事前) 居住地域のハザードマップを収集し、発災時に起こる被害を考える。(30分) (第2回事後) 就職予定(希望)施設とその周辺地域の特性をアセスメントし、必要な備えについて 考えをまとめる(*第5回終了時に提出) (120分) (第7回事後) 授業時に返却する第2回事後課題について、第7回授業をふまえ修正する(30分) (*第8回終了時提出。最終提出されたものをレポート②とする) 第2回事後課題： 授業内容をふまえ、居住地域をアセスメントし、災害時に起こりうる問題を考える。(60分) 第3回～6回事前課題： 指定の教科書を読んでまとめておく。(各120分) 第3回～6回事後課題： 講義内容をふまえて、自己の考えをまとめる。(各120分) 第8回事後課題： 講義・演習を振り返り学びを深める。(120分) ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。							
授業計画	第1回 災害看護とは 災害看護の歴史 災害と倫理 災害の種類と災害サイクル 第2回 災害看護に関わる法令と施策 災害対応関連の法令 災害医療・保健・福祉に関する基本的な施策 地域・施設における災害リスクのアセスメント(小演習) 第3回 防災・減災マネジメント 防災・減災・レジリエンス 事業継続計画(BCP) 健康危機管理：感染症対策 第4回 配慮を要する人への看護 災害時要配慮者 被災者と支援者の心理の理解と援助 第5回 災害サイクル各期の看護①(超急性期～亜急性期) 初動・救護所での看護活動 避難生活(避難所、自宅避難)での看護活動 第6回 災害サイクル各期の看護②(亜急性期～復興期) 応急仮設住宅での看護活動 第7回 災害サイクル各期の看護③(静穏期・準備期) 平時の災害への備え 防災意識の醸成、計画的な備えと訓練(GW) 第8回 災害時に必要な医療・看護技術(演習) 身の回りの物を用いた応急処置、衛生技術 エコノミークラス症候群予防						①小寺  ②多次  ③小寺  ④小寺  ⑤小寺、多次  ⑥小寺  ⑦多次  ⑧小寺	
評価方法 評価基準	レポート80%(①40%、②40%)、GW・演習20% レポートの課題、提出期限などは講義中に提示する。							
教科書	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版			参考書等	講義中に提示する。			
学生への 助言等	災害看護は、災害発生直後から災害サイクルすべての時期において、あらゆる生活の場の人々を対象とした大切ないのちと生活を守るための看護です。授業は講義だけでなく演習やディスカッションを取り入れていますので、積極的に参加し学びを深めてください。							